

報告 1：金賢九（東京大学・院）

「韓国の政治的保守主義の起源」

韓国の政治的保守主義とは何であり、それはいつから始まったのか。一般的に韓国政治には右派または保守だけがあると言われる。1945年日本の敗北後、朝鮮半島南部の韓国では在朝鮮米国陸軍司令部軍政庁時期と朝鮮戦争を経て、反共主義によって左派は消えて政治的に保守的な色彩を持った集団のみ残り、現在自由を標榜する勢力（例えば、現文在寅政権）が登場したとしても、このような政治的構図は依然として存在しているからである。ところが、興味深いのは、保守「勢力」は存在しているものの、そのイデオロギーである「保守主義」は存在しないと言われていているということである。それはどうしてであろうか。

政治学における保守主義とは、急速な近代への変動過程で、このような変化に対抗し、伝統社会秩序を守るためのイデオロギーを意味する。したがって、理性よりも経験を重視し、伝統の尊重、経験による実用、位階と権威などを強調する。しかし、韓国の場合、このような意味での保守主義は存在せず、保守派という勢力は存在しても、イデオロギーとしての保守主義は存在しないということである。むしろ、「現状維持」しようとするという、権力維持の手段としてのいわゆる行動原則しか存在していない。既得権益層が政治的相手を説得して妥協することよりは、物理的暴力を独占し相手を抑圧したからである。その結果、説得の武器になるイデオロギーを必要としなかったため、保守主義というイデオロギーがなかったともいえよう。また、西欧的意味の伝統の保護から見ると、保護すべき伝統が存在しなかったから、権力維持だけを主張するということである。ここでは、このような意味での保守主義を「政治的保守主義」と定義する。したがって、本要旨では、このような議論を中心に権力を握った集団が既得権だけを維持しようとするという意味で、韓国の政治的保守主義の起源と展開課程を第1共和国（1948-54）の事例を中心に発表する。